

久米島町立学校等適正規模・適正配置検討状況

町では学校の適正規模について、保護者の皆さまに理解を深めていただくため、1月23日(金)から30日(金)まで、各小学校体育館などで取組状況と基本方針(案)について説明会を開催しました。

適正規模の基本的な考え方について、学校は学力を身につけるだけでなく、子どもたちが集団の中でさまざまな考え方に触れ、認め合い、協力しながら成長する大切な場であると示されています。また、そのためには一定の児童生徒数やバランスのとれた教職員配置が望ましいとされています。

町では、子どもたちの学びをしっかりと保障するという観点から、小規模化による課題を整理しながら、次世代を担う子どもたちへ「未来へ繋げる学校」づくりに取り組んでいます。地域の皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



適正規模の基本的な考え方(文科省の「手引き」より抜粋)

学校では、単に教科等の知識や技能を習得させるだけではなく、児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身に付けさせることが重要になる。そうしたことから、一定の規模の児童生徒集団が確保されていることや、経験年数、専門性等についてバランスのとれた教職員が配置されていることが望ましく、そのためには小中学校では一定の学校規模を確保することが重要となる。



▲ 関連資料

関連資料は、町公式ホームページでご覧いただけます。



子どもの学びを応援する支援体制

第3回目 英語指導員の役割紹介及び基礎学力向上学習支援員の役割紹介



英語指導員

配置について

小学校英語は5・6年生で教科「外国語」として必修化され、アルファベットの「読む・書く」や基本的な文法などを学習しています。小学校高学年から始まる英語学習に先立ち、英語に慣れ親しみ、令和5年度までは外国の文化への関心を育むことを目的に英語指導員を配置していましたが、ここ2年は十分に配属が出来ていません。英語学習の重要性を鑑みて令和8年度より再度配置できるよう取り組んで参ります。

役割

英語指導員を町内小学校の3・4年生の外国語活動への派遣し、担任と連携して「聞く・話す」の体験活動を中心とした外国語学習の支援を行います。

基礎学力向上学習支援員

配置について

基礎学力の向上において支援が必要な小学校に基礎学力向上学習支援員(以下「学習支援員」という)を配置し、支援の必要な児童の学習習慣の確立や基礎学力の定着を図ることを目的としています。

役割

- ①学習支援員と学級担任が連携・協力しながら教科指導を実施し、指導方法については学校長と学習支援員の調整により決定し、必要な学習支援を行います。
- ②指導対象は第3学年以上とし、教科は国語と算数を中心に授業中の補助、放課後の補習活動等を行っています。
- ③令和7年度配置学校は、清水小学校及び仲里小学校となっています。

町教育委員会においては、安心・安全に学校生活を送り、子どもの学びを確保するため、令和8年度も沖縄振興特別推進交付金を活用し、引き続き各支援員、指導員を配置し支援を行ってまいります。保護者や地域の皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

お問い合わせ 教育委員会 ☎985-2287